

業績低迷でも賃上げ決断 踏み切れぬ企業も

- ★ 「当面の経営上の問題点（複数回答）」について、1位が「原材料価格の上昇」の144社。2位が「需要の停滞」の118社。「人材養成・確保」が61社で3位。
- ★ 「令和7年4月以降の賃上げ実施」について、97社（40.5%）が賃上げを予定。内訳は「業績の改善は見られないが賃上げする」が75社（31.3%）で「業績が好調・改善しているため賃上げする」は22社（9.2%）。逆に賃上げの見送りは、「賃上げしたいが出来ない」（30社）と「賃上げしない」（24社）を合わせ54社。
- ★ 「『賃上げをしたいが出来ない』、『賃上げしない』」理由は、「原材料価格・電気代・燃料費などが高騰している」が35社と最多。以下、「コスト増加分を十分に価格転嫁できていない」24社、「受注の先行きに不安」が20社と続く。

令和7年 1 3 三次商工会議所管内（旧三次市）景況調査【概要】

三次商工会議所

令和7年3月に実施した第140回三次商工会議所管内（旧三次市）景況調査の結果は次のとおり。

本調査は、三次商工会議所管内（旧三次市）の企業を対象に四半期ごとに実施するもので今回が140回目。

市内の480事業所を抽出し、集計企業数は248社（小売業68社、卸売業27社、製造業33社、建設業59社、運輸・交通業13社、観光・サービス業48社）で回収率は51.7%。

【概況】

今期（1～3月）の調査結果を見ると、自分の事業所の状況をどう見ているかを示す業況D.Iは、全業種平均で▲26.2と、3ヶ月前の前回調査から20.9ポイント悪化した。業況が「かなり好転」と答えた事業所が1.2%、「やや好転」が12.9%で、逆に「やや悪化」が33.1%、「かなり悪化」が7.3%だった。売上D.Iは▲1.9から21.5ポイント悪化し▲23.4、採算D.Iも12.1ポイント悪化し▲33.5となった。原材料（商品）仕入価格は67.9と高値で推移している。

今回事業所に対し、「令和7年4月～12月の間に従業員の賃上げを実施するか」を尋ねたところ、97社（40.5%）の事業所が賃上げを実施すると回答した。ただし、そのうち「業績が好調・改善しているため」とした前向きな賃上げは22社にとどまり、75社は「業績の改善は見られないが賃上げする」とし、防衛的な賃上げが目立った。一方、「賃上げを実施したいが出来ない」とした30社（12.5%）と、「賃上げしない」とした24社（10.0%）を合わせた54社は、賃上げを見送ると回答した。理由として最も多かったのは「原材料価格・電気代・燃料費などが高騰している」で、54社中35社がこれを挙げた。次いで「コスト増加分を十分に価格転嫁ができない」とした事業所が24社あった。

また、「現時点では未定」と回答した事業所は65社にのぼり、先行き不透明感が依然として強い。大手企業では春闘を通じて満額回答による賃上げが相次いでいるものの、地方の中小・小規模事業者は相次ぐ物価上昇と価格転嫁の遅れにより、賃上げ原資確保に苦慮している状況が浮き彫りとなった。

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を示す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

業況DI (好転割合) — (悪化割合)

売上DI (増加割合) — (減少割合)

採算DI (好転割合) — (悪化割合)

業況は、全業種合計で今期▲26.2。業種別では、小売業を除く5業種で悪化。卸売業（3.7→▲59.3）、製造業（▲5.6→▲27.3）、建設業（1.7→▲23.7）、運輸・交通業（20.0→0）、観光・サービス業（8.9→▲20.8）とすべて20ポイント以上の大幅悪化。

売上は、全業種合計で今期▲23.4。季節的な要因も重なり全ての業種で悪化。中でも、卸売業（11.1→▲48.1）、観光・サービス業（8.9→▲25.0）プラス値からマイナス値へ急激な悪化。

原材料（商品）仕入価格は、全業種合計で今期67.9と依然として高値で推移している。

採算は、全業種合計で今期▲33.5。業種別では、製造業を除く5業種で悪化。悪化した主な理由とし「売上の減少」とともに「売上原価（仕入・原材料費）の上昇」が挙げられた。売上原価の上昇に対し、十分な価格転嫁が進んでいない状況が伺える。

【当面の経営上の問題点】(上位三項目・複数回答)

・原材料価格の上昇		144社
・需要の停滞		118社
・人材養成・確保		61社

【現在の雇用人員についてどのようにお考えでしょうか？】

・過剰		4社(1.6%)
・適正		135社(55.6%)
・不足		104社(42.8%)

【貴社では、令和7年4月～12月の間に従業員の賃上げを実施されますか？】

・業績が好調・改善しているため 賃上げする		22社(9.2%)
・業績の改善は見られないが 賃上げする		75社(31.3%)
・今年に入り、すでに賃上げを行った		19社(7.9%)
・賃上げを実施したいが出来ない		30社(12.5%)
・賃上げしない		24社(10.0%)
・現時点では未定		65社(27.1%)
・その他		5社(2.1%)

【「賃上げを実施したいが出来ない」「賃上げしない」理由は何ですか？】(2つ以内)

・原材料価格・電気代・燃料費などが 高騰している		35社
・コスト増加分を十分に価格転嫁 できていない		24社
・受注の先行きに不安		20社
・既往債務の返済に影響を与える		7社
・昨年の賃上げが負担になっている		6社
・従業員を増員することを優先する		5社
・その他		4社
・設備投資を優先する		3社
・金利引き上げが予想されるため		1社

※百分率は有効回答数を分母として算出

【業況DI】

	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 26.2	▲ 23.8
小売業	▲ 23.5	▲ 23.5
卸売業	▲ 59.3	▲ 18.5
製造業	▲ 27.3	▲ 33.3
建設業	▲ 23.7	▲ 35.6
運輸・交通	0.0	7.7
サービス業	▲ 20.8	▲ 14.6

(好転割合－悪化割合)

【売上DI】

	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 23.4	▲ 23.8
小売業	▲ 20.6	▲ 27.9
卸売業	▲ 48.1	▲ 11.1
製造業	▲ 24.2	▲ 33.3
製造業	▲ 22.0	▲ 39.0
運輸・交通	15.4	15.4
サービス業	▲ 25.0	▲ 10.4

(増加割合－減少割合)

【採算(営業利益)DI】

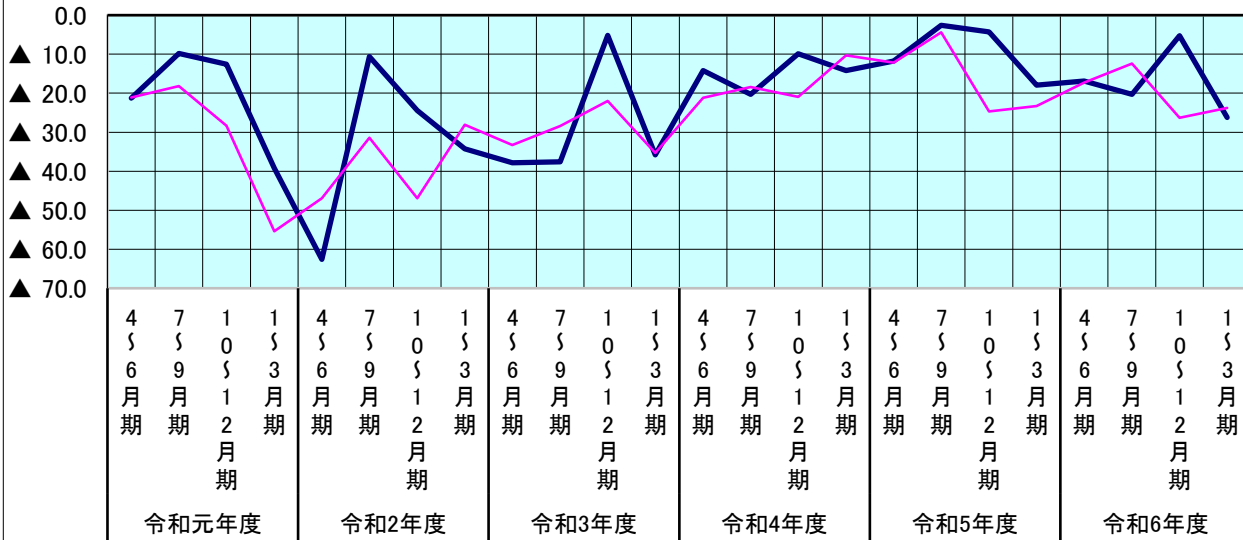
	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 33.5	▲ 31.5
小売業	▲ 30.9	▲ 30.9
卸売業	▲ 48.1	▲ 18.5
製造業	▲ 30.3	▲ 36.4
製造業	▲ 30.5	▲ 42.4
運輸・交通	▲ 23.1	▲ 30.8
サービス業	▲ 37.5	▲ 22.9

(好転割合－悪化割合)

全業種

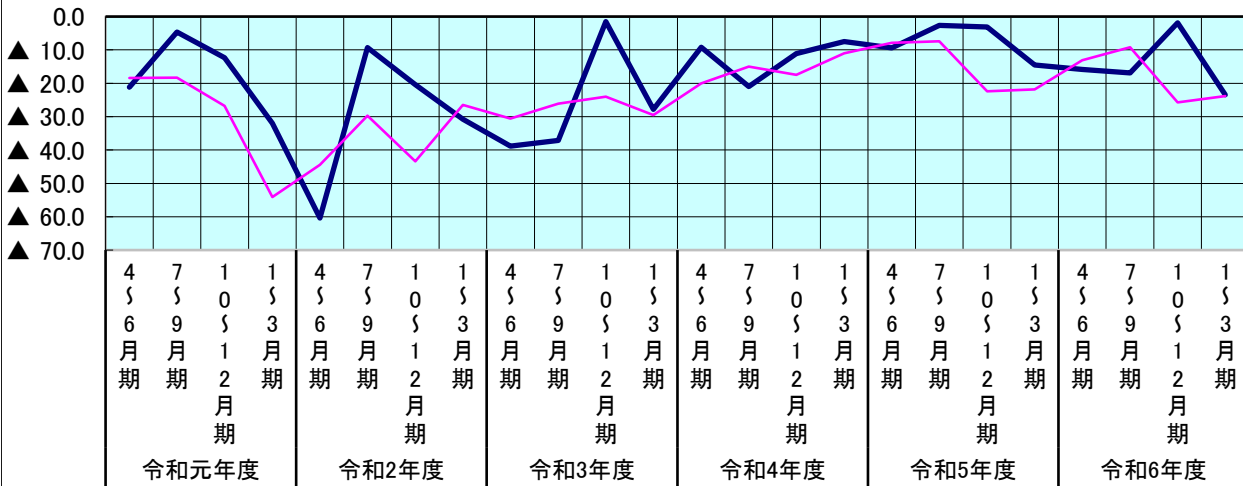
業況D.I.の推移

前期比 来期見通し



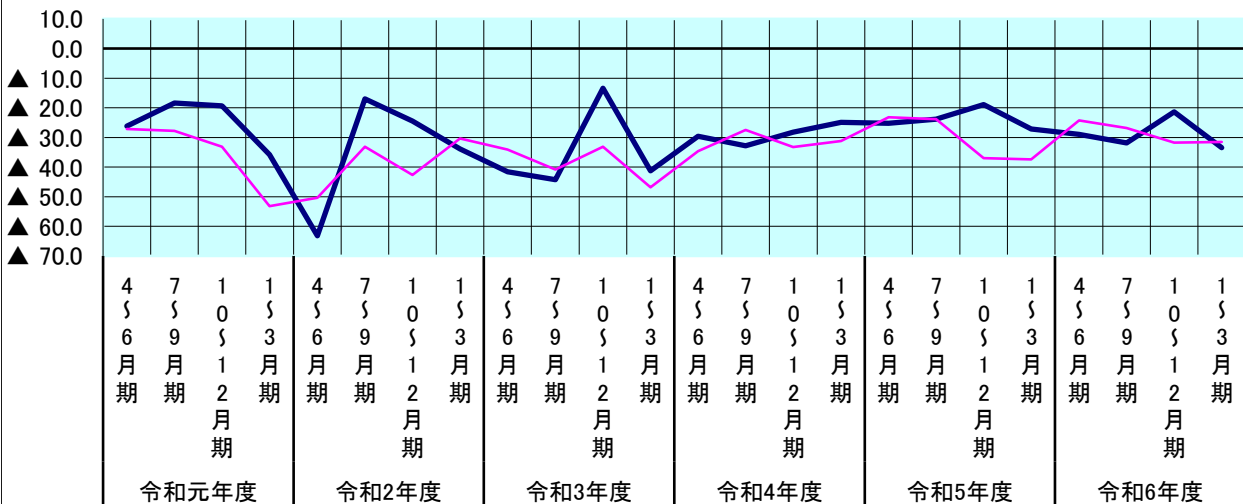
売上D.I.の推移

前期比 来期見通し



採算D.I.の推移

前期比 来期見通し



【景気天気図】

業 種	項 目	業 況	売 上	採 算
小 売 業	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			
卸 売 業	10 月 ～ 12 月 実 績			
	1 ～ 3 月 見 通 し			
製 造 業 (工 業)	10 月 ～ 12 月 実 績			
	1 ～ 3 月 見 通 し			
建 設 業	10 月 ～ 12 月 実 績			
	1 ～ 3 月 見 通 し			
運輸・交通業	10 月 ～ 12 月 実 績			
	1 ～ 3 月 見 通 し			
観 光 サービス業	10 月 ～ 12 月 実 績			
	1 ～ 3 月 見 通 し			

景 気 天 気 図 の 説 明



大変良い



良い



まあまあ



少し悪い



悪い



大変悪い